●歳末自観（三）

夢涯浪客

（四）

飲雪の苦學を欲し單身東都に走り不幸なる病体を冒して漸く校を辭したる吾れは功を競ふて猶都に留まるを赦されず哀れ病軀を携いて俗吏の群に伍し或は日光山麓に或は上毛眉橋の空に轉々し時に或は西垂の際一新聞社に客となりて越路の雪に血汐の筆を執り時に闕西に飛んで偏遊し剰へ眉橋に在りては不幸なる一女子との戀物語りに終生忘れ能はざる悲慘の悲劇のヒロインとなり深刻の傷手をさへ負へたり斯くて只管零丁孤苦をしかすがに嘗め盡し渡る雁と共に玄海を越へ櫻咲くなる母國の春を辭して既に三年再び俗吏となりて遅々たりしが遂に徒らに止まるを欲せず亦衿を解いて職を轉じ操觚者となりて再び一管の筆を握りしが神來は亦吾れに降らず吾れは反省みて但だ深く潜嘆せんのみ

於茲予は再び虚僞の活社會を呪咀せざるを得ざるに到れり見ずや現時の世相を眼を擧げて世相の眞意を俯瞰するに政治と云はず宗教と云はず文藝と云はず將た亦教育と云はず凡百大般の事恐く之れ『虚僞』と『僞善』ならざるは莫く徒らに形式の假装を以て彩色れたる宇宙の化面にして余は今一々活社會の暗黒面を喝破せんより寧ろ『何處に眞ありや』と問ふの頗る捷徑なるに如かずと爲すものなり國は國と戰ひ人は人と相奪ひ骨肉は骨肉と相食むの狀之を批判せんとすれば躁然として慄々せずんばある可らず而して然も大膽に『眞』を標的として此の流俗と闘へる智者は比々概ね衆愚の投つ小石に其の頭蓋を打割られ矛盾と撞着との鎧を纏へる暗弱の徒の嘲罵裡に遂に逝かざる可らざるなり斯くて男子快を行ふを得ずんば假令壽百歳を過ぐるも猶夭死のみ寧ろ眞實なる一瞬時に如かずして虚僞の千年は其の一瞬轉に如かざるを

（五）

猶予は觀せり何か故に人は生れて何がために活くるものぞ是れあらゆる哲學家宗教家が解釋し說明せんと試みたる所にして然も今に於て猶解き得られざる大なる謎に非ずや而して曾て試みられたる種々の說明も色々の解釋も畢竟の苦しき覚に何等のオーソリチーを有すと是れ皆人間が強いて自らを慰めんとするもので然れ共予は決して來る可きの自らを安んぜんとして其の私心より死を畏るゝに非らずして死するに其宜しきを得る能はざらんを深く懼るなりらに架構し胡論亂想的解釋を爲したるに過ぎずして宇宙の大自然に花は咲き鳥は歌ふ花は嘗て其の何が故に咲けるを問はず鳥は嘗て何が爲めに囀づるを疑はずして彼等は常に幸福なり獨り人間何が故にか其自らの生に疑ひ惑ふぞや蓋し之れ疑ひ惑ふは茲に意味ありとすればなり茲に意味ありとするは之全く人自らの心に於ける所作に過ぎずして倘し萬象悉均しく充足の原理ありとすればこそ人は自らの生の上にも何が故の何の爲のと問へば所謂充足の原理は唯心の所作に過ぎざる一の因果律が客観に出現せられたるもの即これならずや觀ずれば人の生に何の所以何が故と何が爲めとがあらんや人は生るゝ故に生れ活きるが故に活き死するが故に死するなり唯此れのみ此以上に何の故何の爲と問ふは是れ畢竟人の迷のみ人の慾のみ恰も地に曳ける自己の影に逐はるゝ者にも似たらずや而して人生ははたゞ現在の連續のみ過去とは闇黒に落ちたる現在の陰影にして未來とは闇黒に寫れる過去の反影なり影を捉へんとや愚ならずや影幻を逐はんとや痴ならずや只管現在に生きよ有るか儘に生きよ是即目的なき人生の目的にして歸趣なき人生の歸趣のみ嗟々何をか疑はんや何をか惑はんや

（六）

予は今病魔を得て石の如く冷やかなる衾の上に打伏せり

「……再び死の手の影を心に感じつゝ……今宵にも明朝にも斃にても……ア、餘命幾何……」

否顧を下しつゝある今の瞬間にも然れども余は自ら疑ふ予は泰然として其の命の在る所に安んじ靜かに其日を竢すを得べきかを吾れは未だ人として社會に何の貢献する所ある能はず此くの如くにして一年亦一年吾れ空しく終つて性業の各骨假と共に葬り去られん事を想へばア、吾は猶死する能はず然れども死す可らずと雖も死せざる可らず、……此の病体を奈何にかせん

夫れ臨終の期一度び到つて安じて死し靜かに瞑する能はざるは人の恥辱なりと聞く倘し是をだに得ずんば我が半生

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

外事一束

▲葡國 王黨目下共和黨間に紛議あるに乘じ首領マニユルの辭職申出しを▲留任を勸告し王黨の衰微を防止すると共に勢力恢復に努め活動を試みんと

▲鐵道 會社種々の點に於て讓歩し從業者同盟會を承認し英鐵道紛擾落着す

▲阿巴 楚及シャラスンは露領に滿洲里驛と司村は清領に烏爾順河の東方は▲一部 露領に一部清領に歸し齋々哈爾にて調印を終り露清國境茲に決定す

▲米國 大統領今年に限り議會へ下す教書を八回に分ち一問題宛提出すべき

▲國籍 を米國に有する猶太人の入國を露政府拒絶し漸く米議會の大問題となる▲蔭起し在米猶太人亦運動盛なり而も露國は如何なる決議にも應せざらん

▲在澳 波蘭人レッペルと露國領事館を襲ひ瓦石を投じて亂暴を試む蓋し其▲原因たるや露國がコルム市を波蘭の行政區劃より分離せるを憤りてなり

新年和歌募集

勅題「松上鶴」

選者 九皐館去留

一、一人にて何首にても宜敷、用紙用箋は御隨意の事、但投詠者は住所氏名御明記の事

一、締切期限來る十二月二十日

一、發表は四十五年一月元旦の本紙上を以てす

右は例年の通り勅題和歌募集致候に付同好の御方は奮つて御投詠あらんことを

京城新報編輯局

●新刊紹介

△新公論（浪人號） 本誌卷頭の袁世凱、共稼傑論（鵜崎鷺城）清朝の大立物袁世凱を解剖詳說して余す所なし蓋し近來の讀物なり噴火山の如き浪人（竹越與三郎）先發後樂の志士（副島博士）明治の乞食浪人（早川鐵冶）等古今東西の浪人を誌上に躍如たらしむ此外世界萬國言論界の重要思想を網羅せる萬報一覽共々名實を充たし來たり（定價金二十一錢五厘東京市本郷區東片町新公論社）

△朝鮮農會報（六卷十一號） 論說農政の○いい○○郡守に望む（中村彦）朝鮮の森林に就て（植木秀幹）調查資料には例によつて農業家の資料となるべきものを網羅したり（朝鮮京城中部貞洞朝鮮農會一冊二十錢）

△婦人世界（第六卷十四號） 口繪及び卷頭の寫眞版は例によつて朝鮮村井弦齋氏（我が邦の人情美）下田歌子（過去一年の婦人界）アハマット夫人（初めて見た日本）此外家庭に於て一讀を要すべき有益にして趣味ある記事を以て充さる（一冊郵稅共十六錢五厘東京市京橋區南紺屋町實業之日本社）

文苑

●悲情悲歌（下）

夢涯生

眼をあげて師走の月を眺めては
そゞろに思ふ母や如何にと
散りにける落葉の中に交りたる
紅いたましき花の一輪
我が聲のかぎりうたはむ『社會』に
『主義』と『正義』に血の冷ゆるまで
二十有五年荒み行くなる己が心をば
如何共爲し得て暮る春亦春は迫り
悲情悲歌われのが心に似たるかな
空も亂れて月の濁れる。

梁川庄八

小金井蘆洲演

第五十八回

それ故誰有て之れを知る者なかりしが伊達家の老臣天童筑前方へ罷り越して扨申されるやう『使』先つ頃政宗侯の御家來茲に里見家より態々使者を立て、伊達家の老臣天童筑前方へ罷り越して扨申さるゝやう『使』先つ頃政宗侯の御家來藻庭主水の御家來四人にて、宮田兵庫殿と申しまするもの、捕者國元に逗留中の、梁川庄八に決闘を申し込みなした、其節庄八たるものは、遠は君主政宗侯の御下知に依て參つた者ではあるまい、若し左あらば當方に於て、其方共の望みに任せ検束として檢視立合の上決闘に及びました、然る處四人の人々は悉く梁川のために斬殺になることでございますから、老臣共協議の上、左様な者は當藩にないと申すとも、一と使者を歸すと云事に一决致し、そこで天童筑前が使者に面會致して御挨拶致すべく聞、四人の死骸埋葬を御依賴致し、四人の御仲間にも立寄る處宮田兵庫殿々取調べ候處、藻庭主水と申者は一家來の者にござりませぬ、又、宮田兵庫殿に於ては早速國許に於て取調べ、主水の家來にはござりませぬ、又宮田兵庫と申する者、主君の命にて檢視なりと稱へて扨右の一件御照會に付、主君の命にて檢視なりと稱へて當藩には無之もの、然らば御申越の照會のため參上仕りました』と天童筑前大に驚き『天』御沙汰もこれなく甚だ以て迷惑致すにつき、右の一件御照會に相成りましたが斯くなつたからは政宗侯も捨置かれず、今までは目を掛けて、旅舍に引取らせ、早速老臣に、此儀如何致さるべきかと相談に及びました、遠國より御使者を賜はり御照會下され、なれど諸侯の好誼を以て、安房守殿の御厚志は家中一般は老臣共、藻庭と申處があつて、是れが主水の知行地でございます、其處へ蟄居仰付けられ、又宮田兵庫は主命を極めたる仲なれば、切腹の上家名改易と相成りました、此れで一應の仕置は片附ましたが、斯くなつたからは政宗侯も捨置かれず、今までは目を掛けて居られたが、奧州仙臺破牢浪士、梁川庄八、宿札を打て日本國中を遍歴されては、誠に伊達家の外聞にも係はる次第、左ればさて一人の浪士に向つて追手を大勢差向けると云ふのも、伊達家の武名にも係はる事だから、追手としては副手一人を差向け、彼が行衛を尋ね引括つて此國表に伴歸し、國法に照して處刑せざれば、家の綱紀が立たぬ、さて、政宗侯は俄かに日頃武勇を嗜む若侍を御前に召されました、政宗侯は一統の者を御覧ぜられて『政』「今日一同を召出したるは、余の儀に有らず、梁川庄八、當國を亡命致して、行く先々にて仙臺破牢の浪士と、不屆の振舞を致して往來いたす、斯ては伊達家の武名に疵つくる行爲なり、依て武邊心得の者は祿の高下身分の上下は問はん、彼が行途を尋ね之れを押らへ、遥かに歸國致せ」と殘酷く仰せられました

にては何共取計ひ兼る、と云ので右の勿論、主人も至極滿足に存じまする、宜敷安房守樣御前御取成下さるやう願ひ即刻ますする、遠路の御入來御足勞に存じ申す、是は主人より御使者の貴公へ對し御尋ねて此少ながら、御遠慮なく御受納下さりますよう」と様々なる珍品を下さり、主人も至極滿足に存じ藻庭主水を呼出しに相成つて、御尋ねになると一言の申譯もない、只恐入て宮田兵庫と相談して、家來四人を付けて遣つた事を申立ました、そこで宮田兵庫も呼出され御詰問になると、是も主水が吐いて居るのですから主君の御名を僞り里見家へ赴いた次第を申述べてました、只管恐縮して居ります、サア何うも致し方なく申受けて、本國へ立歸りまする、宗侯も不屆至極な奴原なやと御立腹に扨伊達政宗侯は藻庭主水の遣り方を御憤りなされまして、改易切腹を申しはなりましたが、出來て了つた事で致し方がないそこで是を當家で存じて居ると付ん位に思召しましたが、父祖の勳功と云へば、伊達家の外聞他家の物笑ひがあるから聊か宥恕をして、名取郡に

東京電報

▲選擧法改正原案 既電十四日開會されたる衆議院議員選擧法改正調査委員會に內務省より配付したる原案は各種方面の事情を調査し諸外國の制度を斟酌して編成したるものなるが該案は現行の大選擧區を改正して小選擧區と改め從來の如く單記無記名制を採用せんとするものにて選擧權限等に付ては改正をなさず今後の方針は從來の如く市部は人口三萬郡部は十三萬以上の人口を有するに非ざれば獨立選擧區の單位は郡を以て一區劃とし場合に於ては二郡を以て爲す時もあるべし而して之が爲め增加すべき議員數は約十四五名なり

▲寺內總督の出發 寺內總督は十七日午後新橋發歸任すべし

▲寺尾博士の休職 革命軍に招聘せられたりと噂ある寺尾博士は十五日休職を命ぜられたり

北京特電

▲清皇帝と漢姓 清國皇帝は愈々漢姓を冒す事に決定し徐世昌は聖旨を奉じて上諭の起草中なり

▲滿廷益々悲觀 攝政王の退讓に對して貝勒等は大に反對を爲し其他滿洲高官の人は皆不滿足にして宮中の暗鬪起り一面皇太后の垂簾の政治之れより始まらんとし滿洲朝廷の前途は甚だ悲觀すべき狀態に陷らんとす

▲黃興の媾和說 革命軍中最も强硬の態度を持したる黃興も飜然和議の說を主張し中國は中國の中國也決して外國人の干涉を許さず國民共に和衷し禍亂を鎭定すべしと袁世凱に打電し媾和を切望し居れり

▲清國無線電信設置 事變以來各地の電線多く妨害を受け通信の便を欠ぎ損害尠少ならざるを以て郵傳部は各樞要區間に無線電信を設置すべく特派員を派して調査すべし

上海電報

▲激烈なる反抗 山東省獨立取消の後第五鎭の壓制激烈なるより人民憤慨し或る手段により外人の干涉を惹起し山東の天地を混亂せしめんと斷言し居れり

▲宮廷派の潛伏 青島は宮廷派の潛伏所となれり即ち盛宣懷薩鎭冰が青島に在る事既報の如くなるが目下旅順港に滯在中なる鐵良張人駿も青島に赴くべし

▲孫逸仙上海着 孫逸仙は獨逸汽船にて上海に向ひ十七日同地着の豫定なり

▲借款成立乎 倫敦レンジゲートよりの報に依れば清國との大借款は談判進行中にて平和克復と共に一億兩の借款成立の筈にて擔保は蒙古西藏の外藩の鑛利權にて之が爲め各國の倫敦に於ける募債全部は中止し就中日本との商談は行惱み居れり

▲張家口の危殆 山西大同府總兵王得勝は部下を率ひ革命軍に投じ張家口を攻擊せんとすとの情報に接し之が討伐の爲め十五日禁衞軍一營を張家口に急派し同地駐劄の軍隊と合同連絡せしめたり

▲袁世凱の斷髮 袁世凱は率先して斷髮したるが閣臣に範を示す爲めなり

▲唐一行上海着 在漢口川島司令官發電によれば唐紹怡の一行は英國汽船にて十四日漢口發モリソン英國副領事同伴十五日上海に到着せり

▲休戰中の大衝突 武漢方面に於ては休戰中なるに拘らず去る十二日漢口附近に於て大衝突あり官軍大敗したり

▲革軍の司令部 舊に復 革命軍は司令部を武昌城內に復舊したり

新報

●施行規則改正 農銀 曾て立案中なりし朝鮮農工銀行令施行規則改正案は此の程脫稿したるを以て來る十八日頃發布さるべしと

●組合監督規則 金融 過般來度支部に於て制定中なりし朝鮮地方金融組合監督に關する規程は豫て參事官の手許に於て審議中なりしが來る十八日農銀施行令改正規則と同時に發布さるべしと

●軍人服役令改正 今回從來の陸軍々人服役條例を改正して服役令及び服役例施行細則の二に區別せられたるが勅令第二百八十六號を以て朝鮮臺灣樺太關東州又は滿洲に在る陸軍々人の服役に關し朝鮮に在りては憲兵隊長及憲兵分隊長に其事務の一部を擔任せしむることゝなれり

●釀造試驗場廢止 度支部釀造試驗場にては朝鮮に於ける各種酒類の釀造及試驗をなし來りしが明年度より中央試驗場新設せられ諸般の試驗に從事するを以て特に存立の必要なく同所に合併する事となるべしと云ふ尤も中央試驗場は明年に於ては主として建築のみなるを以て事業開始は或は同所に於て當分中央試驗場附屬の釀造所たるべしと云ふ

●水稅率の調査 朝鮮の各水田に灌漑用として設けられたる伏洞、又は堤は古來用水の供給を受くる區域の畓より其使用料を徵收するの慣例にして驛屯賭收入中の水稅又は伏稅と稱せしが今回徵收上の基礎を定むべく當局にては各道の伏洞堤等に於ける稅率其他を調査したりと云ふ因みに全南、慶尙南北、咸鏡南北の各道は伏洞に概當すべき稅稱なしと云ふ

●雲山斷脈事實 雲山金鑛斷脈に付ては目下世間に種々の取沙汰あるが、本紙の確聞するところに因れば右斷脈は事實にして目下雲山關係の米人等は邦人津田鍋雄氏の所有にして雲山に隣れる熙川金鑛に掘入り作業を爲しつゝあるなり尤も津田氏が雲山米人に採堀權を讓渡したるや將た私堀を默認しつゝあるやは事實明かならざるも兎に角雲山の鑛脈が絕へたるは事實にして津田氏及び農商工部の態度如何に因りては米人は彼の方面に於ける採鑛事業を永遠に停止することゝなるべしと云ふ

●鮮人會社の整理 朝鮮人の設立しつゝある株式、合資、合名等の各會社は槪ね舊韓國政府時代に認可を得たるものなるが出資本は二三千圓乃至一萬圓餘に過ずして、何等眞面目に營業するものなく不正を敢てなすものは次第認可を取消しつゝあるが尙調査未了のもの少なからざるも漸を追ふて整理する筈なりと云ふ

●模範場監督田 近況 水原郡勸業模範場にては豫て監督田普通田を設け監督田に於ては萬事農作上に於ける監督指導を施し以て農民一般に知らしめつゝあるが今其水原郡麗達組合なる模範場監督田の近況に就て聞くに同組合は明治四十年の組織にして現在組合所屬の小作人三十八名あり其の目的は共同貯金、共同購入及び販賣等にして各小作人は其の刈上を終りたる後收穫物を全部組合に引渡し之れを組合にて賣却したる金額より小作料等を除し殘餘を共同貯金となすものにして第一年目に於ては五十八圓の貯金を得たる譯なるが模範場にては之れが全部を擧げて其の最も廉價なる時期に於て油糟の購入即ち共同購入を行はしめ又た五年毎に各小作人の耕作反別に比例して其の收益を計算し其分配工合の五十圓に達するものには之れを各個人の所有となすを許せざ而も土地農具等の購入の外は其の金を使用せしめざることゝし其他余業組合なるものを組合中に組織せしめ夜間繩其他の製作に從事せしむる等監督者の指導宜しきを得たる結果五年後の今日にては組合員貯金額五百十二圓に上り尙ほ本年の如きは米價騰貴の爲め多額の貯金增額を見るべく又た余業組合の如きは其の收入を冠婚葬祭費に充つることに規定さるゝあり組合員は一般に此等不時の出費に際しても聊かも困難を感ぜず頗る好結果を呈し居れりと

●法令第一號の配布 從來各道府郡に於ては法令の發布ある毎に之れを謄寫版に印刷して各面に配布し居たりしが斯くては時間と手數を要するのみならず莫大の經費を要するに付爾今面に所要の法令を集錄し(朝鮮譯文)朝鮮總督府公文と題し週刊とし其の第一號を來る十八日發行各面に配布すべしと

●獸毛皮昨今の需用 各種獸毛皮は毎年の例に依れば上流朝鮮人冬服裏地用として需用多く昨今に至り價格の昂騰するを免れざるが本年は其の表地として缺くべからざるものとされをる支那製絹織物の輸入杜絶にて品薄の爲め獸毛皮の需用亦少く昨年に比し二三割方安價なりと

●渡鮮新入兵の出發 去る一日新に入營する騎兵工兵科の特科隊各百餘名は去る十一日仙臺停車場發青森に赴き同港より乘船釜山淸津の二港に上陸し各本隊の守備地に配屬せらるべく第二回野砲兵第二聯隊新兵約百五十名は輸送指揮官能本砲兵中尉の令下に十一日仙臺發青森を經て渡鮮の途に就きたる旨通報ありたり

●驛屯土臺帳の整理 寺內總督は十五日各道府郡に對し驛屯土臺帳異動等に關し長文なる訓令を發したり

●大田愛婦會發會式 愛國婦人會大田委員部は去月末設立せられたるが爾來井上委員部長を始め各役員の熱心なる盡力に依り會員日に增加し既に百名以上に達したるを以て十七日をトし盛なる發會式を擧ぐる由なり

●開城委員部の設置 愛國婦人會にては今回開城方面に委員部を設置することゝなり齋藤警視夫人を委員長に朴郡守を顧問に朴郡守夫人其他重なる官民の夫人を委員に囑託したりと

●機業傳習所の獎勵 愛國婦人會鎭南浦委員部が同管內鮮人用木綿の改良を圖る爲め機業傳習所を設置し既に第一回卒業生を出したる報告の東京の本部に達するや會長以下各役員等の同事業が時勢の進運に伴へる公益的事業なりとて大に之を稱贊し傳習生の手になりたる織物數反を取り寄せたりと

●通俗教育會の設立 古城民長を會長として設立認可請願中なりし東京通俗教育會京城支部は十五日を以て警務總監部より認可となりたるに就き會長古城民長副會長吉澤其他各幹事發起人等は十六日午後二時より京城圖書館に於て設立披露を兼ね相談會を開き一同記念撮影をなしたりといふ

●咸南道の運賃標準 咸鏡南道警務部に於ては道廳と協議の上諸運搬の標準額を定め其以內に於て實行せしむべく管內各隊署に通牒を發せりと

●清國商務總會開會 當地支那人商務總會は來る廿日午後六時より華商總會に於て第三回商務總會を開き商況及び清鮮貿易に關し調査せる筈なり

●前田正名氏の出席 前田正名氏は十六日午前九時十分南大門驛發歸東の途に就きたり停車場には官民百餘名見送りありたり

●清水文之輔氏就任 元當地十八銀行支店長たりし同氏は病痾療養の爲め久敷內地歸還中なりしが此程健康恢復せしを以て在東京太陽生命保險會社專務取締役に就任したる由なり

●前田翁歡迎會 當地民團商業會議所及經濟協會聯合の前田正名翁歡迎會は十五日午後六時京城ホテルに於て開催せらる當夜の出席者は賓客を始め官民重なる人々六十餘名肴席直ちに古城民長の賓客歡迎の辭あり續いて前田翁起つて謝辭を兼ね大要左の如き談話を試みたり

翁曰く、今夕は私の爲めに御會合を御催し下さつて難有存じます、何しろ今々此處へ御會合の諸君は御困難の事とは云へ男子の本懷とも云ふべき半島經營の任務を盡しつゝあらるゝ事故私は今夕茲に諸君之れ迄の御辛勞を謝し尙今後の事に付ては大に御願ひ致して置くのであります。

只今は私へ對して歐洲視察談を試みよと云ふ御注文でありましたが、歐洲の事は隨分數多く見て居りますが其總てを今夕申上ぐることは不可能であります、因て私が著しく印象を受けた其一二を蓄音機的に申上げて諸君の御參考に供したいと思ひます

まづ第一に今度の旅行中私の注意を惹いた事は、中央ヨーロッパ殊に英國に於て過去四十年間物價に差したる變動の無かつたとであります、私は維新前後舊幕主及明治政府の御蔭で十六ヶ年間歐羅巴へ留學して居りましたが、其時分と今日とは物價の上に餘り相違が無いのであります、獨り物價のみにあらず、風俗に於ても大變化はして居らぬのであります世は如何に進歩しても風俗及び物價の二者に大變動の無いのは其國及國民が已に健全な發達を爲して居る證據で我國及び國民としては羨ましい次第であります。

次に申上げたいのはドイツとフランスの事でありますが、右兩國は私が先年留學して居りました際彼の有名な普佛戰爭をヤツたのであります。御承知の通り右の大戰爭は結果に於てプロシャの大勝利となり佛蘭西の大敗となりました、茲に面白きことは今日私が獨佛兩國へ行つて見ますと勝つた獨逸も敗けた佛蘭西も各自同じく勝敗の目的を達しつゝあることであります。

御承知の通りプロシャは彼の大勝に因り獨逸聯邦を作り爾來商工業に力を注ぎ今日の大を成して戰爭の目的を達しつゝあります。一方敗けた佛蘭西はドウカと云ふに之れ亦た敗けた事に因つて發奮の結果商工業を盛にし資本を積蓄した結果今ではドイツの工業家に多額の資本を貸附けドイツをして再び佛國を侮ることの出來ない樣にして居ります。

如斯凡そ戰爭なるものは國民が軍人に頼んでして貰ふのでありますが、只だ戰爭に勝つ許りが決して戰爭の目的ではないのであります、ドイツの如きは往年戰爭に勝ち而して其戰爭の目的を爾來引續き今日に到り商工業の繁昌乃ち內外貿易の擴張に因つて達しつゝあります。

次に朝鮮に付いて申上げますが、之れは私が申上げるよりは諸君から伺ふのが順序であります、唯だ一二氣付いたことを申しますと現在の如く十萬や十五萬の移住民で此半島を開發すると云ふことは無理であります宜敷多數の內地移民を入れ農商工水產業總てを內地人に因つて經營せしむる樣せねばならぬと思ひます云々

夫れより翁は移入超過問題に關し某氏の質問に答へ且つ國家が戰爭を爲すは戰爭に勝つが最後の目的に非ずして勝つた結果を商工業に因つて收むるのが最後の目的なることを反覆說明し、續いて外國貿易に附いて我特長を失はざるべきこと及び當地移住民の先輩者は子孫に向かつて惡しき風習を遺さゞることに留意すべきことを說きたり尙翁が移入超過問題に關する答辯は不幸にして不明なりしも右は當地の事情に通ぜざる翁の事なれば是非なきことゝ云ふべし

●清國動亂と京城 影響(二) …京城商業會議所調査…

▲金融 內地人に關しては何等の影響なく清人と取引を有する一部鮮人は其の代金の請求延取引廢止のため非常に困難を感じ居ると雖も未だ全般に及ぼす程の事なく清國人にありては直接の影響を受け頻りに本國より送金の請求あるを以て一時困難の有樣を示し商業極めて振はざりしも元來彼等は資力以上の事業を爲し居るもの少なきを以て大なる苦痛を感ぜず努めて自己の安固を圖り居るが如し又動亂後各銀行及貸金業者にありては清人に對し資金の供給を爲すのみならず夫れ以前に貸付けたるものは漸次回收し今や全く其の金融を斷ち專ら警戒し居ると雖も清國人全体を通じて尙十數萬圓の預金を有するの狀態にして目下の處別に著しき影響なきが如し

▲商業 商業狀態を見るに只僅かに清國よりの輸入貨物事變發生以來著しく減少し小包郵便に依るものを除かば僅かに輸入せらるゝのみにて清國人は英國人及日本人の上海代理の手に依り營業中止の姿なるを以て上海に於ける集荷少なく清國產物の輸入は當分の間不可能の狀態にあり而し普通貨物を減少せる一面に於て小包郵便に依り絹布輸入の日々增加せるは日數の短縮と危險少なき便宜あるためならん又綿布綿糸等に相場の變動を見たるも之れ直接にあらずして間接の影響なるを以て未だ著しきこともなく在住內地人は例年の通り聯合賣出に忙はしく相當の好況を保ちつゝあり

●歳末商品仕入狀態 歳末移入商品の仕入狀況に就き市內運輸業者等の語る所を聞くに昨今は其の入荷數量昨年に比し稍減少を示し稅關倉庫の在庫貨物亦例年と異りて毫も停滯を來さゞるを以て一見本年度の商品仕入高は極めて少量なるが如き觀あれども之れ市內各商店が本年は早手廻しに十一の兩月に於て既に年末用仕入商品の移入をなしたると氣候比較的寒冷ならざる爲め雜貨商が例年の如く防寒具の再度移入を行はざるに因るものにして此種移入品本年度の總數は之れを昨年度に比すれば內地移住民の增加に伴ひ依然增額を示し居るものにて又た昨今に於ける移入貨物の品種は年末年頭贈答用の菓物、鮮魚、諸雜貨類にして就中菓物の移入最も多く諸雜貨類は市民の嗜好が漸く關西製品より東京製品に移りたる結果此等移入先は東京地方其の大部分を占めをるといふ

●補充憲兵の京城着 憲兵司令隊補充憲兵三十名は十六日午後八時十分南大門驛着の筈なり

●高田憲兵中尉昇進 警務總監部保安課次席たりし憲兵中尉高田稔氏は今回大尉に昇進したり

●角田司令部副官着 憲兵司令部副官を命ぜられたる角田少佐は十六日午前八時四十分入京着任せり

●倉長通信社長出發 滯京中なる倉長中外通信社長は十六日の夜南大門發列車にて歸京せり

●山根正次氏の招宴 山根正次氏は十六日午後六時より京城ホテルに於て本年中同氏が衛生講話のため出張の際隨行せし各員數十名を招待し晩餐會を開く由

●久水仁川府尹招宴 久水仁川府尹は來る廿七日別項記載の各國居留地會閉會後官邸に於て京仁在住各國領事等を招待し晝餐の饗應を爲すと

●手形交換高の週報 本月四日より九日に至る一週間に於ける京城手形交換枚數及交換高は枚數四千百廿一枚にして金額九百六十四萬六千百廿六圓也と

●各國居留地會總會 來二十七日午前十時仁川各國居留地會を同事務所に開會し明年度の豫算を協議する筈にて之を以て本年度の最終會となす由

●總督府法律研究會 既報の如く總督府法律研究會員は十六日午後三時より大和町東洋協會學校內に於て本年度納會を開き席上會長たる兒玉秘書官其他各名士の有益なる講話演說ありたりと

●鴨綠江の全部結氷 鴨綠江は十六日新義州上流全部結氷し氷上を徒涉し得るに至れりと

公人私人

▲三根昇(大邱憲兵隊長)十五日浦項へ

▲增尾鍬三郎(滿鐵運輸課員)同上

▲マグレゴー(仁川英米貿會社員)十五日巴城館へ

▲岩本次郎(公州地方裁判所長)同歸任

▲本田幸介(水原模範場長)同日水原へ

▲京城手形交換高▼

十二月十六日 金 二三一、一五八、二二〇 枚 五一九

▲茶袋▼

借款を起して軍費の調達に苦心して居るかと思ふと一面には頻りに媾和說が行はれて居る又從來强硬の態度を執つて居つた革軍の首領黃興が近頃飜然我を折つて媾和を唱ふるかと思ふと早晩上海に着く筈の孫逸仙が途中將來革命軍の成効を囑望して居るとの說がある▲何にが何んだか清國昨今の形勢は些ッとも要領を得ぬツマリ之れも本を洗へば貧乏人の內輪喧嘩から夫れで喧嘩が長引き從つて色々な風說が行はるゝのだらう、袁が平和的態度を持して可成武力に訴ふることを避けて居るのも一は此の點で自然と相手のヘタばるのを俟つて居るだらうが併し現在のところで、北京政府の方が其のヘタばり方が酷く革軍に二目も三目も置いて居るの觀あるは聊か情ない▲革命軍の者共が總て斷髮をして帽子を冠るので內地の帽子商は何れも繁昌して居るさうな、最近大坂から輸出された數丈でも七萬個と稱されて居るところで大阪の帽子商人は過日聯合して同地の商業會議所に對し帽子輸出戾稅實施の申請をなし同會議所より更に此の間開催された聯合會に提出したそうだが遂に物にならなかつたとのことだ、流石は大坂の商人丈あつて商賣には拔目はないが併し戾稅も酒や醬油とゴッチャにされては困るヲ▲會議所で思ひ附いたが京城商業會議所の會頭問題は一体其の後何うなつたのかしら若し擔ぐべき神輿がなければ暫時樽神輿位のところで間に合はしたらよからう

漬物の漬け方

▲蕪菁の千枚漬

大蕪菁の莖を切り落して根丈けを三分位の厚さに平らに輪切にし水菜（東京にては京菜と云ひ或る地方にては絲菜とも云ふ）の株を小さく切り剝り置き蕪菁一個に付き二勺足らず平均の鹽を振りかけ乍ら蕪菁と水菜を一緒に漬け込み凡そ一晝夜すると水があがりますから其れを取り棄て更に鹽と花麴とを混ぜた物と平折昆布（藁だわしをかけて能く砂を擦り取りたる物）とを用意して漬け替へるのです其の順序は先づ漬桶の底に鹽（昆布は鹽氣ある故鹽は極く少量にてよろし）と麴を混ぜたのをばら／＼に振り敷いた上に輪切の蕪菁二三枚を並べて其の上に昆布を平に乘せ鹽と麴をばら／＼に振りかけ之を繰り返して最後に水菜を並べ詰め押蓋をし壓石を輕ろ目にして置くと二晝夜位で立派に食べられます水菜の代りに蕪菁の莖其の儘を使用してもよろしいですが如何云ふものか其れでは苦味がさします漬桶は小桶として時々漬けた方が風味がよろしいです又た麴は必ずしも用ゐるに及びません現に京都の千枚漬には麴を用ゐてありませぬ

▲松前漬

松前漬はつい此の頃知人から聞いて實驗して見ましたが一寸變つた風味で温かいご飯の時などは好い副養物になります蕪菁は小蕪菁の大い目の、でも中蕪菁でもよろしいのですが莖一寸位付け根に生てる毛や莖の付根の邊にある黒い汚い部分を丁寧に削り取り皮を剝かずに凡そ二分の厚さに堅目に切り次に鹽鮭の皮をすき取つて肉を七八分の角に切て置きます、割合は中蕪菁五個、鹽鮭十五匁位でよろしいです別に平折昆布五寸（五六分の角なり長方形なりに切る砂は藁だわしなどにて能く擦り落すこと）酢五勺、醬油三勺、唐辛一二本を混ぜ合はせ其の中に右の蕪菁と鮭とを漬け込み押蓋をし輕い壓石をして四五日して食べます酢と醬油との割合は各人の嗜好に依つて適宜に加減し又唐辛の如きは多きも辛きも將た入れるも入れぬも御隨意です生漬を好む方なら二日位からも食べられます

西洋商話

●店員一同の競爭賣出し

賣上高の多少は販賣係の意氣込に依るに違ないと、或る百貨商店の支配人がクリスマスから正月へ掛けて大賣出しを行つた後の二の矢に店員一同の競爭賣出しを斷行して又候甘い味を占めた夫れは右賣出し中各販賣係に賣上高の一分を特別賞與に與へたので、店員一同は大に勇んで、來る客／＼逃さじと腕を振ふは言はずもがな、各自に得意客を誘ひ來つて賣上を競つた爲め二月の閑散時も何處を不景氣の風が吹くと言つた位に繁昌を極めた。

警務總監部御許可
檢査濟消毒牛乳 壹合六錢五厘
設備の完全と清潔は本所の特色なり
京龍一手販賣所の牛乳は歐米式ゲルベル氏の器械にて檢査し合格したるもののみを歐米式の消毒器にて消毒したるものなれば配達後再び煮沸には及ばず其まゝ飲みてよろし
▲新鮮生バタ
あぜんのちゝ そのまゝのみてよし

京城永樂町二丁目(電話一七〇番) 藤富國牛乳部
龍山漢江通二丁目(電話一〇二番) 藤富國牛乳部出張所
仁川本町四丁目(電話三一九番) 藤富國出張所
店主 藤富國太郎
顧問獸醫 肥塚正太
專務獸醫 松原重人
技術手 堀井平太郎
京城本町六丁目(電話三〇八番) 藤富國本店

◉新荷着
▲銘茶、鰹節、東京海苔
右新製品卸小賣共大勉強可仕候間御注文願上候
仁川宮町 卸小賣商 青島商店 電話七〇九番 振替京城六八〇番

靜香園 茶

特約販賣
舶來ピアノ、オルガン
西川ピアノ、オルガン
辻ピアノ、オルガン
鈴木ヴアイオリン 鈴琴
洋樂器 各種
目録定價表御入用の方へは進呈仕候
京城永樂町二丁目赤十字前 西村樂器店

精神ノ感應 無藥眠術ニ基キ
諸病ノ療治 惡癖ノ矯正ヲ爲ス
南山町一丁目六十四番戸ノ一 大剛庵

最上醬油
高
釀造元 仁川港萬石町 高杉醬油釀造場 電話七六五番

齋藤齒術所 京城旭町一丁目 電話一四一四番

例年之通景品附
◉歳暮御贈答品大賣出
▲左記御贈答用品として取揃居申候
▲鰹節箱入 ▲鰹節袋入 ▲砂糖桶詰 ▲各種漬物 ▲奈良漬樽詰 ▲鮭糀漬樽詰 ▲鮭粕漬 ▲鮭鹽漬 ▲西洋酒類一式 ▲櫛形印醬油 ▲甘露醬油瓶詰 ▲櫻正宗瓶詰 ▲西洋菓子 ▲乾物類 ▲鑵詰類 ▲雲丹瓶詰
●商品切手
陸軍諸官衙御用達 (大) 大上友太郎商店 京城本町五丁目 電話二百五十壹番

大聲發音器
日本蓄音器 朝鮮蓄音器 各種品揃
音譜目録無代進呈
地方の御注文は振替口座又は引換小包にて御送附可仕候
日本蓄音器商會 朝鮮總代理店
歐米雜貨 洋酒食料品 洋煙草類 直輸入商
京城本町 辻屋 電話二四八番 振替口座八七番

母國よりも安い
携帶電燈 大一圓二十錢 中壹圓 小七十錢
懷中電燈 大九十錢 小七十錢
電燈 小七十錢
地方には即時小包發送
各種眼鏡 金銀時計 一時計 蓄音器
●大々的の勉強
販賣 金化堂時計舖 京城本町一丁目郵便局前 電話三一八番

酒精アルコール
直輸入元 坂倉支店 京城本町一丁目(電話六五一番)(電略サ) 振替口座京城五八二

◉京城市内の御注文は遠近に不拘早速持參可仕候
概略營業品目
和洋帳簿 諸紙類 文房具 學校用品 巻紙封筒 手帳類 帽子 洋傘 クツ靴 洋服附屬品一式 メリヤス類一式 毛布 膝掛 馬車掛 石鹸 香水 齒磨類 タオル、ハンカチフ 手袋 沓下 袋物類
正札 (一) 引なし
池田長兵衛
官衙、陸軍、銀行、會社御用達 京城本町四丁目 電話二百〇六番
和洋雜貨卸小賣商
◉地方よりの御注文は代金引換小包にて發送仕候

誠ハ弊店ノ主義也

釀造元 仁川山根町二丁目 深見勝三郎 電話二四八番 電信略號(フ)

朝鮮仁川港 電話三六六番
木綿、太物 メリヤス 綿、文房具 紙、帳簿類 干物 食料品 鑵詰、荒物 金物、洋傘 日鮮人向雜貨
帝國化粧品研究所 明月あらい粉代理店
卸商 (コ) 小林倉二郎商店 振替口座京城一九九番

東宮殿下台覽 牛乳料 京城博覽會一等賞金牌
洋種乳牛及朝鮮牛賣買
牛皮牛骨の賣買
入院隨意 京城家畜病院
種豚山羊家禽種卵賣買
多木肥料販賣代理店
京城古市町九番戸
朝鮮畜産株式會社 電話八八番

鑛山用 地球鷲印八角鋼
鐵道用 同 角鋼
工具用 同 鏨各種
英國セフヒールド市シーボムアンドディキンスタル製鋼會社特約品
右は朝鮮一手販賣致居候處滿鮮地方の材料器具製作用として最も適當の品にて極めて好評を博し價格亦內地輸入品より格外の廉價に御座候間何卒一度御試用奉希上候
和洋金物商 京城本町五丁目 釘本藤次郎本店 (電話四五番)電信略號『ク』振替貯金口座京城二五六番

効能ある温泉
鐵冷温泉
旅館並に浴客席貸
京城長谷川町一丁目(朝鮮銀行北横手) 廣安喜次郎 電話一四一一番

M.C.C.
土耳古 紙巻 エムシーシー
專賣局定價は百本に付金九圓貳拾錢なるも朝鮮內は大安賣
京城、平壤 龜屋……釜山、木浦、群山 高瀨支店

●新荷着
●各火鉢 ●鏡台 ●テーブル
●帳簞笥 ●針差 ●椅子
●膳戸棚 ●鐵金庫 ●机
家具、漆器、唐木製品、諸金物類、柳行李、諸荒物類 其他日用世帶道具一式
弊店は總て內地製造工場と直接特約致居候へば非常なる廉價にて小賣も卸直ヶ以て御賣捌に應可申候間多少共御試買之程願上候
(ツ) 仁川港新町一丁目(西北角) 津屋兄弟屋 電話七六九番 振替口座京城三八一二番

優等清酒
釀造販賣元 仁川港 吉金酒店 (電話七六四番)

眺望の好き事
陸軍指定旅館
鐵道院指定旅館
仁川水產組合指定旅館
各保險會社指定旅館
第一なり
弊館には夜警の設備有り
御客樣の安全此の上なし
仁川海岸 旭屋旅館 電話二五一

印刷
諸官衙御用
諸紙 和洋帳簿 印刷 各種製本
播本商店 京城永樂町二丁目 電話

牛馬犬猫治療所
入院隨意
京城明治町三丁目 院長 小川鑑太郎 小川家畜醫院 (電話四二七番)

大坂瓦斯コークス並に器具一式
國定教科書 文房具販賣 仁川新町二丁目 百崎金港堂 電話五百八番

入院隨意
中島醫院 京城壽町三丁目(電話三七八番)
院主醫學得業士 中島貞信

東京流納豆大安賣

特製 寶味噌 御料理向
味噌製造 漬物問屋 仁川本町三丁目 たからや 電話七三七番

弦齋流割烹 す津祢 南山町一丁目 電話千五百二番

本場精撰 茶
右銘茶各種新物續々入荷に付卸小賣とも大勉強仕候間多少に不拘御用命願上候
仁川本町四丁目(府廳通) 田中芳春園 電話四五〇番 振替京城五〇二番

(キ) 汽船出帆廣告
三省丸 舊島行 十二月十日午後十一時
三草丸 海州行 十二月十一日前十二時
長數丸 海州行 十二月十一日前九時
安省丸 大湖芝行 十二月十九日前七時
荷客取扱所
仁川本町四丁目 合資會社秋田商會汽船部 電話一七三番
仁川本町一丁目 秋田商會船舶部 電話七五〇番
仁川本町海岸通 柴田回漕店 電話四一九番
仁川本町四丁目 山本回漕店 電話五二二番

掲示
本職所管ノ森林内ニ於テ左ノ行爲ヲナスコトヲ禁止ス
一、樹木ヲ盗斫スルコト
一、落葉、下草、灌木類、樹皮、樹實園篁、土石等ヲ採取スルコト
一、火災ノ原因タル處爲ヲナスコト
一、標識ヲ移轉シ又ハ毀損スルコト
以上
明治四十四年十一月 李王職

國寶「花山森林」を視る（六）

天眞生

森林中の開棚けたる高きに立ちて眼を放つ廣袤數千町歩の大森林は茫洋として我が脚下に來り朝するの觀がある、蒼々たる松の海、花山林域の南に盡くる所更らに高かく立てる洗馬臺となす。今は昔藤肥州が明の大軍に包圍せられて水道を絶たれたとき白米を以て水に擬し馬を洗ふて水の盡きざるを示した明軍望み見て水道を絶つも功無しとなして圍を解いて去つた、と傳へらる、洗馬臺であると同行の某氏は說明せらる、麓より山嶺に至る迄悉く松樹を以て蔽はる山の大さは南山程もあらう、田島某なるものが斧鉞を揮ひつゝあるのは此洗馬臺の奥人目も草も枯れ果てゝ誰に憚るものもない所だと聞く、吾二面子が斜面積六千町歩立木一町歩宛三百本より五百本此平均四百本とし總數二百四十萬本としたるは林業上の智識を有する某氏の說に依りたるものとて一點の違算はないものと思ふが、評價の百萬圓は寧ろ廉きに失する、若し百萬圓で拂下げるとならば借金を質に置く迄もなく何時たりとも引受ける事を辭さない、森林を橫斷して所謂田島某の遠大橋（僕の命名）架橋工事及道路修築、輕鐵敷設工事など見るべく釜山街道の人となつた、遠大橋は一は長さ三十間幅四間一は長さ二十間橋材は悉く松樹なるが橋脚の較々細きを憾む、此所に憐むべきは橋板は皆木口二尺五寸位の松材の心材を除きたる樋形したる皮附き斗り而して心材は何地行きけん影も無い、既に二面子の記したる如く同橋材の全部は李王職より供給したるものにて餅店駐在伊藤巡査の語る所に依れば實に口徑二尺乃至二尺五寸物三百本を要したりと云ふ、幅十八吋十二ポンドの輕鐵一哩斗りは布設竣工して居る、輕便鐵道は土工用だらう、之れを聞きたる架橋工事受負人は頭を振つて曰く『イ、エ松材の運搬で厶います、其證據には橋を高くして勾配を取りアノ橋を又高くして隙力を利用しますので、餅店から花山石串洞邊に通じて四哩程、一哩二千圓と致しまして八千圓、夫れからトロ一臺三十圓二十臺で六百圓マーザッと一萬圓布設費から何からだと隨分なものです』と幾棒が一萬圓で威嚇さうと掛つて居る、花山森林を百萬圓でも引受け樣と云ふ僕だもの一萬圓には驚かない

千九十圓の買物を運ぶチゲ賃に一萬圓以上も費ける田島某の無鐵砲には驚かされた、修築の爲めには小丘阜の切り拓きも行つた如だ眼前一直線に一哩程の所白衣の鮮人が堵を爲して所謂里道の改修作業中だ、僕は思ふた、此問題が持上つて儲け物をしたのは里民だ橋は拵へさせる里道は良くなる漁夫の利を得たものと云つて宜からう日は愈々傾いて風は愈々寒い、入口に乘り捨てた人力車が迎ひに來た、車上の人となつて寒さは一層烈しい、再び大石橋を渡つて徐ろに此大森林に別れを告げた、洗馬臺は夕暮雲を劈いて巍然として千古の翠容を誇つて居る、ア、國寶花山森林の山靈、樹魂、希くは其の靈威を發揮して奸奴が暴横を許す勿れ。同じ道を同じ思ひを繰り返して一命恙なく水原驛前山本旅館樓上に晩餐を喫し七時四十五分の列車に搭じて京城に歸り着いたのは正に九時幾分、驛を出づれば星斗の光り森嚴として冬の夜の權威は身に逼る（完）

●雪の朝の本町通

（十六日午前九時） 夜叉若

午前九時出社前に本町通りを歩いて見た一點の雲影なき紺碧の空の彼方から旭光がキラ〱と輝いて夜來の雪に薄化粧をして人界を照す樣な美しい而して狹隘な道路を人車や荷車が連續して通る中に前科者の如な眼をした男や俸給にも年末賞與にも未だ間のある今日を自烈たさうに頭を左右に搖り動かしながら店頭を雲時打目戍つては萬引もしかねぬ間敷若い婦人もある、鮨屋の横手には幼稚園の生徒と思はるゝ子が寒さに堪ねやらでかメソ〱と立往生してゐる青木堂の横路を長谷川町の方から謎鋲輪で送らるゝ小學兒童も見た怎麼な子供、いゝいゝ社會にも貧富の懸隔が認められ思はず涙ぐまずには居られなかつた暮歲の聯合大賣出しの旗燈を飾り立て、客を呼ぶ店には未だ喜悦の色は見ハず不安と希望との色がチャンポンに際ふてるばかりだ。フト或る貴金屬店に足を向けて景況を聽くと景氣は良いが金高が少ないといふ品物は捌けるが金廻りが惡いさいふ何故かと問ふたら一般に地味になつて實用的の品ばかりが賣れるからださクリスマスの贈物を飾つた店の中で明治屋支店が一番目を惹いた三越のクリスマストリーも宜かつた急ぎ足で明治町を通ると前に古いインバチスを着た男が頭巾まで被つてゐる一足先きになつて後を振り返ると金の一本筋の制服を着てゐたのは頗る不思議に思はれた規定の外套が買へないのかソレとも質に入れたのか何にしても疑問だつた

社告

鳥兎匆々愈極月と相成本紙新年號準備の期も愈相近かづき申候就て本紙が此際愛讀各位に御願致度は本紙新年號に掲載すべき各位玉稿の御寄贈に候其玉稿の論文たると將た美文たると詩、歌、俳句情歌端歌たるとは各位の御隨意にして本紙は硬軟何れをも歡迎仕候

新年畫附錄

本紙新年畫附錄は本紙が特に郭書の大家川端玉章翁に依囑して成りたる勅題松上鶴の祝畫にして其高尚優美なるは贅言を要せずと確信候

十二月 京城新報社

●仁政下に此窮民

▽一家七名死に瀕す

銅峴警察分署管內往十里陽地洞四統八戶裵貴家は一家八人の家族ありて生計困難なるより京城市內に出で、は料理屋旅館其他の家にて棄てたる魚類の臟物を拾ひ歸り食物となし其日〱の糊口をなし居たる程に悲慘なる家庭なりしが十五日も拾ひ來りし臟物を八人の家族中一人丈け氣分不快なりし爲め食せざりしが殘七人にて食ひ盡したるに間も無く當年十歲と七歲になる男の子は十六日午前九時に至り卽死し殘る五名も危篤の狀体に陷り內三名程は將さに絶命せんとしつゝある旨急報に接したる銅峴分署にては一大事なりと警察醫兼務の新町病院長杉原醫士と共に警務總監部衛生課よりは軍醫を特派に警官數名檢視し注射施療しつゝあり猶し分析に從事せしめ一方右有毒物の投棄しありし場所取調中なりと

●窃盜の巡査志願

▽左樣は問屋で卸さぬ

東京市牛込區南町當時南米倉町六十一番戶の六三村新吉（三四）は總督府巡査志願中の者なりしが倭城臺巡査派出所前を通行するに同所詰河野巡査擧動不審として南部署に引致し長野岸佐藤の三刑事に引渡したるに同人は窃盜嫌疑者にて搜査中の人物なりしより取調に着手し一方贓品發見に從事せしに本町六丁目永井新之助方外十六ヶ所に忍入り金品三百圓以上を窃取したる事發覺し尚ほ餘罪ある見込にて取調中

●漢江結氷と船舶

▽十日後には全部結氷

漢江の結氷は前年より少しく相後れたるもの、如く目下麻浦の下流にして氷流緩漫なる下水登里賀中里等に於ては一分より一分三厘の厚さに全部結氷したり龍山麻浦附近にては未だ全部結氷はせざれども今後十日の後に至れば全部結氷するに至るべければ麻浦及龍山部なる船舶の集合地點に於ては目下夫れ〱船舶陸揚の手配中なりと云ふ

●人身賣買の失敗

▽保護する法律ありや

江景北町飲食店山下延吉（四五）は元仁川花町三日月亭の酌婦立畑いさ（十八）を百五十圓にて抱ね他に轉賣して利益を得んとし各地を連廻りたるもいさの御面相が醜いので百五十圓は扨をき只の五十圓も出す者がなく愈々持て餘したる結果仁川の金村旅館に宿泊中延吉が手を出したので女房氣取りに成て言ふ事を肯かぬに延吉は驚き早速警察署へ出頭していさに說諭を願ひますと

●奧村の豫審終決

▽愈々公判に附せらる

元京畿道廳雇員奧村千里の官命橫領事件は愈々豫審決し十五日付にて擔檢事の手にて京城地方裁判所公判に付せられしが彼れの犯罪の動機及費消したる方法等は既報の如くなるに付略す

●市原總裁の盜難

▽名士の盜難頻々

旭町二丁目市原鮮銀總裁宅には十五日夜賊侵入し洋服外數點窃取せられし旨其筋に屆出たるより目下犯人搜查中

●石炭泥棒捕はる 仁川萬石洞四統七戶船乘業金敬拜（四五）及平洞二十六統七戶擔軍孫順運（二八）花村洞六統七戶擔軍李哲房（一八）水踰洞李遐基（二八）の四名共謀して十五日午後五時三十分仁川花房町二丁目海岸道路に積みありし秋田商會所有の石炭を窃取し船に積み水踰洞海岸に挑走せんとせし折から秋田商會雇人荒井市藏（四五）が發見し一同取押へ告發したるを以て目下取調中

●京城樓の新妓 新町遊廓京城樓は近頃非常の人氣にて又々輸入し來りし美形を披露せんに埼玉縣人上野きく（二〇）は小菊と名乘り東京市京橋區越前堀町松本エイ（二二）は小勇と東京市本所區林町中島ツチ（十九）は小繁と千葉縣人田村ナベ（二二）は小房と名乘り現はれたる中にも小菊は東京赤坂溜池にて三平と名乘り左褄取つて居たりと

●夕暮に燈籠を拾ふ 西部餘慶坊五宮洞金慶南方朴永西は十五日午後六時頃太平町郵便所前路上に於て宮廷用と思はる、色燈籠九十九枚價格百圓の物を拾得西大門分署に屆け出でたり

●オーバコートを盜む 住所不定田聖吉（三三）は本月十日午後四時半頃永樂町一丁目山田慶三郎方に忍入りオーバコートを窃取し南部署に捕れ取調中

●玉家席の新妓 長崎縣長崎市船大工町生れ仲マツヨ（十六）は本年一月より仁川鱗積より松子と名乘り左褄取つて居たが事情あつて京城券番玉家席より玉奴と名乘り何分御贔屓を

●うつて叩かる 南部小龍洞六統一戶李春宗（三〇）同六統二戶金元瑞（三九）は賭博の現場を南部署に檢擧され笞刑五十に處せらる

●演藝だより

▲壽座● 新派劇にして『浪の寄る邊』

▲浪花館● 若遊三一行の落語、手踊り

日曜集會

▲京城基督教會（相生町） 午前十時半より渡瀨牧師の禮拜說教『十字架上の新光明』午後二時より漢陽教會の說教あり同師の『新人の理想と十字架の教訓』夜は宗像昭四郎氏の傳道說教『始過と信仰』あり

▲日本基督教會（旭町四丁目） 午前十時より井口牧師の禮拜說教『我等が義務』夜七時半より傳教說教『信仰の基礎』なりと

▲メソヂスト教會（旭町一丁目） 午前九時半日曜學校十時半より藤岡牧師の『觀よこれ其人也』夜は傳道說教あり

●日韓寺（花園町） 同寺にては十七日午後一時より月並觀音講說教並に御詠歌和讃等ありと因に同寺主管大降大定禪師の話題は『歲晚の佛法』參聽隨意なりと

野邑安之助妻トミ事病氣の處本月十五日死去致に付ては葬儀は來る十七日午後一時出棺於大和町淨土宗開敎院執行仕候間此段生前辱知各位に謹告仕候
十二月十五日
峯岸繁太郎
池上要吉
野村助治
友人總代